

第4班テーマ：シニアリーダーの養成について

今なぜ「シニアリーダーの養成」なのか？

- ◆ ジュニアリーダーが高校を卒業すると、地元を離れ進学や就職をする者が多く、子ども会OBとして自分の育った地元の子ども会に関わるのが難しい。
- ◆ 反面、子ども会OBとしては高校卒業後も子ども会に関わりたいと願う熱意を持った若者も多く、シニアリーダーとして活躍したいが、シニアリーダーに役割を与えていない市・町子連、県子連も多く、シニアリーダーとして活躍できる場がない。
- ◆ そのため、子ども会とその育成者・指導者の狭間で、熱意はあるが行き場のなくなっているシニアリーダーの位置付けや役割を明確にし、子ども会の活性化に寄与してほしい。

1. シニアリーダーとは？（シニアリーダーの定義）

- ジュニアリーダーの経験者であること。
- 独身かつ、年齢制限あり（概ね40歳未満）
一つの案であり、異論のあるところではあるが以下の根拠がある
 - 年齢制限の理由としては、「子どもの目線、ジュニアの目線」で考えられる青年期に近い年齢が望ましい。
反面、大学卒業後や就職後に「Uターン」で地元に戻ってきたり、「Iターン」で地方に移り住んだジュニアリーダー経験者が、シニアリーダーとして一定の期間活動できるように、少し長めの年齢制限としたい。
 - 独身とした理由では、結婚後は仕事・生活・子育てに忙しく、子ども会活動に深く関わりたくても、時間的に難しいという側面がある。
また、結婚して子育て世代となれば、子ども会の良き理解者としての「育成者」、更には「指導者」として子ども会を育成するという次のステップの役割が期待される。

2. シニアリーダーは何をするのか？（シニアリーダーの役割）

- 子ども会の頂点として、ジュニアリーダーの上にシニアリーダーを位置付ける。
 - シニアリーダーは、ジュニアリーダーのリーダーとして、大人の指導者に代わりジュニアリーダーを直接指導する。
 - シニアリーダーの活動範囲は、地域の子ども会のみならず、市町村、地区、県の範囲でも活動して、それらの地域での指導や技術の交流を図る。

- 育成者・指導者をサポートする。

決して、イベントの単なる実働部隊とか、指導者・育成者の使い走りではない。

- ジュニアリーダーや子どもたちに近い感性で、ジュニアリーダー養成プログラムや子ども会イベントの企画を行う。

地域においての運営はあくまでもジュニアリーダーが主体である。しかし、広域の育成プログラムやイベントではシニアが企画から運営までを行う。

3. シニアリーダーのレベルを上げるには？（シニアリーダーの育成・研修）

- ジュニアリーダーOB をシニアリーダーとして養成する。

- 現在シニアリーダーが組織化されていないところでは、熱意のあるジュニアリーダーOB に子ども会活動の中で何らかの役割を与えるところから始める。
- それらのメンバーがある程度の人数集まったところで、シニアリーダーとして組織化し養成する。

- シニアリーダーがシニアリーダー養成プログラムを企画する。

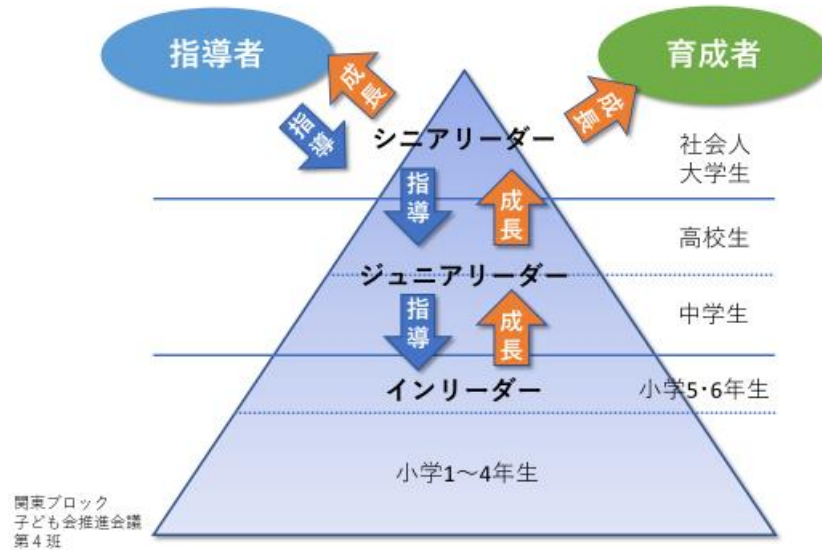
- 大人の「指導者」や、研究者や知識人である「専門委員」が作成した育成プログラムは、シニアリーダーのあるべき姿が示されているが、与えられたものの。

それに加え、シニアリーダー自身が何を学び、どう成長したいのか、自分たちの想いを反映した育成プログラムを企画していくことも必要である。

- 広域ブロックや全国レベルでの活動を行う。

全子連では、各県子連からシニアリーダーを2名推薦してもらい、「全子連ユース」という名前で組織し、シニアリーダー自身の育成プログラムの作成や育成研究会の部会テーマの企画と運営を行うことが企画されている。

シニアリーダーの位置づけ



シニアリーダーの育成 について

関東ブロック
子ども会推進会議
第4班

シニアリーダーの位置づけ

